

令和7年第1回臨時会

江東区教育委員会会議録

令和7年2月18日（火）

江東区教育委員会

令和7年第1回江東区教育委員会臨時会会議録

- 1 開会年月日 令和7年2月18日(火)午前10時00分
- 2 閉会年月日 令和7年2月18日(火)午前11時13分
- 3 開会場所 江東区役所
- 4 出席委員 本多健一朗(教育長)、安部敏啓(教育長職務代理者)、鈴木清人、浅野美智子、大久保善子
- 5 出席職員 青柳教育委員会事務局次長、梅村教育委員会事務局参事 深川図書館長事務取扱、瀧澤庶務課長、西尾学校施設課長(整備担当課長兼務)、佐久間学務課長、金指指導室長(教育センター連絡調整担当課長兼務)、木内教育支援課長(教育センター所長兼務)、大田地域教育課長、吉木江東図書館長

6 議題

- 日程第1 議案第8号 江東区立幼稚園教育職員の給与に関する条例の一部を改正する条例に関する意見聴取
- 日程第2 議案第9号 江東区立深川第六中学校校舎その他改修工事請負契約に関する意見聴取

7 報告事項

- (1) 令和7年度奨学生 予約生の決定について
- (2) 教育に関する意識調査の結果について
- (3) 令和7年度新1・7年生の学校選択制度の進捗状況について

8 審議概要

本多教育長 それでは、ただいまより令和7年第1回江東区教育委員会臨時会を開会いたします。

本日の会議録署名委員を御指名いたします。浅野委員、大久保委員にお願いいたします。

それでは、審議に入ります。

日程第1 議案第8号 江東区立幼稚園教育職員の給与に関する条例の一部を改正する条例に関する意見聴取を議題といたします。

本案について事務局より説明願います。

次長。

青柳教育委員会事務局次長 議案第8号 江東区立幼稚園教育職員の給与に関する条例の一部を改正する条例に関する意見聴取。

上記の議案を提出する。

令和7年2月18日。提出者、東区教育委員会教育長、本多健一郎。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、江東区長から意見を求められたため、本案を提出します。

本多教育長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 それでは、議案第8号 江東区立幼稚園教育職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について御説明をいたします。資料1をお願いいたします。

今般御審議いただきます条例につきましては、現在、住居手当については、定年前短時間再任用職員及び暫定再任用職員が支給対象外となっておりますが、これを支給対象とする旨の改正を行うものでございます。

この改正の背景といたしましては、令和6年8月に発出された国人事院勧告におきまして、再任用職員の手当拡大について触れられており、住居手当がそこにも含まれておりました。江東区におきましても、国の給与制度との均衡を踏まえ、区職員の給与条例の改正と併せ、幼稚園教育職員についても支給対象とするための改正を行うものでございます。

資料の項番2、改正の内容でございますが、こちらは、現在適用を除外するとなっている規定から、定年前再任用短時間勤務職員において住居手当を、また附則においても同様に、削る改正を行うものでございます。

新旧対照表につきましては、2ページ以降に記載をしておりますので、御参照をお願いいたします。

なお、施行期日につきましては、令和7年4月1日からとさせていただきます。

説明は以上でございます。よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願いいたします。

本多教育長 本案について、質疑願います。
安部委員。

安部委員 説明ありがとうございます。

これは国の勧告でこうなったということだと思えるんですけども、この対象の方々はもともともらえていなかったわけですよ。どのぐらいの期間になっちゃっていたのかとか、別のものでもらえていたのか、それがすぐ替わっただけなのかとか、その辺を教えてください。

本 多 教 育 長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 こちらですけれども、いわゆる再任用制度というものが職員に取り入れられたのが平成14年からでございました。この制度導入のときから、こちらは手当の支給対象外となっていたところがございます。

ですので、これまで該当する再任用職員は住居手当を支給されていなかったところですが、今般の改正で支給できるようになるというところがございます。

以上でございます。

本 多 教 育 長 よろしいでしょうか。

実際に対象となっていた方々がいたかとか、この辺のところについて、何か状況が分かれば。

庶務課長。

瀧澤庶務課長 現時点で住居手当が支給されていて再任用である職員、また、現在住居手当が受給されていて今後再任用に切り替わる予定の職員というものは、幼稚園教育職員にはありません。

それ以前については、そもそも制度導入前でしたので、該当するかどうかというのは調査もはかかっていないので、そこは不明でございます。

以上でございます。

本 多 教 育 長 ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。

日程第1について、原案のとおり決定することに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

本 多 教 育 長 御異議ございませんので、これを決定いたします。

次に、日程第2 議案第9号 江東区立深川第六中学校校舎その他改修工事請負契約に関する意見聴取を議題といたします。

本案について事務局より説明願います。

次長。

青柳教育委員会事務局次長 議案第9号 江東区立深川第六中学校校舎その他改修工事請負契約に関する意見聴取。

上記の議案を提出する。

令和7年2月18日。提出者、江東区教育委員会教育長、本多健一郎。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、江東区長から意見を求められたため、本案を提出します。

本 多 教 育 長 学校施設課長。

西尾学校施設課長 それでは、議案第9号 江東区立深川第六中学校校舎その他改修工事請負契約について御説明いたします。資料2を御覧願います。

本件は、外壁や屋上防水改修、校庭改修などの居ながら工事による小規模改修工事でございます。

こちらは建築工事でございます。2月13日に一般競争入札が行われ、記載の株式会社小川工務店が2億5,300万円で落札し、仮契約を結んだところでございます。資料2に入札結果を添付しており、落札率は95.3%でございます。

説明は以上でございます。よろしく御審議の上、御決定くださいますようお願い申し上げます。

本 多 教 育 長 本案について、質疑願います。
安部委員。

安 部 委 員 説明ありがとうございます。

とりあえず、無事に落札できてよかったなと思っています。ただ、6社入札して下さって半分が辞退というの僕にはよく分からないのと、ほかの落札の2件も、内容を精査した云々ではなくて最低制限価格未満だったからというのは、実際に小川工務店さんとの価格差は言うほどないので、最低制限価格もほぼぴったりなんじゃないかと思うと、この辺は精査しても、価格だけで見るというのと、どうなのかなと思うんですけども、その辺で何かありますか。

本 多 教 育 長 学校施設課長。

西尾学校施設課長 今回、6社入っております。辞退の理由については把握していませんが、もともと不調の理由にあった辞退理由としましては、技術者不足というところがありました。今回はその辺りが考えられるということと、あと最低制限価格につきましては、こちらは入札時のダンピング対策として設定がされているものでございます。割合的には高い割合となっておりますが、この辺りは入札の制度上、適切に設定されていると考えております。

以上でございます。

本 多 教 育 長 安部委員、よろしいでしょうか。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、お諮りいたします。

日程第2について、原案のとおり決定することに御異議ございません

でしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

本多教育長 御異議ございませんので、これを決定いたします。
これより報告事項に入ります。

報告事項1 令和7年度奨学生 予約生の決定についてを説明願います。

庶務課長。

瀧澤庶務課長 それでは、令和7年度奨学生 予約生の決定について御説明をいたします。資料3をお願いいたします。

去る2月4日に第2回江東区奨学資金審査会を開催して、令和7年度奨学生の予約生が決定いたしましたので、御報告をいたすところでございます。

項番の1、申請状況及び予約生の決定、(1)申請者数と審査結果を御覧願います。申請者数24名でございましたが、募集人数おおむね50名の範囲でございましたので、全員24名を予約決定としたところでございます。

審査方法につきましては、奨学資金審査会における審議により決定をいたしました。

また、(3)に記載のとおり、採用された予約生、現在のところ入学が確定をしていないので予約生という形になってございますが、高等学校等への入学確定後に、正式に令和7年度生として決定するという形で考えてございます。現在、書類等により確認をしているところでございます。

なお、下の表、参考として枠囲いの中に、支給額、今後のスケジュール等を記載してございますので、御参照願えればと存じます。

説明は以上でございます。

本多教育長 本件について質疑願います。
鈴木委員。

鈴木委員 審査に合格したということで、審査内容はどのようなものだったか改めて教えてください。

本多教育長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 こちらは応募の条件といたしまして、成績の基準と世帯の収入の要件、2点ございます。成績は、中学校3年の前期が平均3.5以上、また、世帯の収入額については、令和5年1年分について600万円以下という条件がございます。

また、申請者本人、生徒本人の進学後の勉学への意欲、また、これまでのことも踏まえて、学校長等の推薦も踏まえた上での決定となっております。

以上でございます。

鈴木委員 ありがとうございます。

本多教育長 ほか、いかがでしょうか。
安部委員。

安部委員 これは、高校入学決定してから、その方の成績は多分、特に見ないと思うんですけども、ちゃんと在学しているんだよねという確認は常に取るということになりますか。

本多教育長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 まず、成績でございますけれども、入学後、特に確認はしていないところですが、こちらの要項の中で、いわゆる進学の意欲、勉学の意欲があるというのが条件になりますので、例えば極端に成績が不振であるとか、あるいは当然、学校を退学するとか、そういう場合については支給が終了するという形になってございますので、こちらについては確認をしながら支給しているところでございます。

以上でございます。

本多教育長 ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは、本報告を終了いたします。
次に、報告事項2 教育に関する意識調査の結果についてを説明願います。
庶務課長。

瀧澤庶務課長 それでは、教育に関する意識調査の結果について御報告をいたします。
資料の4をお願いいたします。

9月の本委員会で御説明を差し上げたところですが、教育推進プラン・江東の改定に当たり、教育に関するニーズや課題の抽出を行うため、意識調査、アンケートを実施いたしましたところでございます。その結果の報告となります。

項番の2、調査実施概要でございます。

前回の委員会でも御説明いたしましたとおり、対象といたしましては4つのパターン、18歳以上の江東区民、江東区立小学校に在籍する4年生から6年生、江東区立中学校に在籍する生徒、また、この小中学生

のそれぞれ保護者に、表記の件数の調査票を送付いたしました。

調査方法につきましては、依頼文、質問票を郵送により送付し、回答はウェブによる回答方式といたしましたが、区民向けのものにつきましては郵送での回答も受け付けたところでございます。

実施期間につきましては、10月16日に発送、当初は10月末日までといたしておりましたが、ちょうど衆議院議員選挙の入場整理券の発送と重なってしまったことから、こちらの調査依頼票が郵便で翌週の発送となったところでありまして、最終的に回答期限を延長し、11月11日までといたしたところでございます。

3、調査結果でございます。

回収結果については表のとおりでございます。前回の教育推進プラン改定、令和2年の調査の際の回収結果との比較ですが、小中学生につきましては今回初めての調査となったため、比較はできませんが、保護者につきましては前回回収率が84%、また、区民については32.5%であり、回収率が今回、減となったところでございます。

こちらですけれども、保護者については、今回郵送でしたが、前は学校を通じて配付をしたことから、一概には比較ができませんが、区民につきましては、前は郵送のみでの回答、今回はウェブ回答の併用ということで、郵送による回収率のほうが高かったことから、ウェブ回答方式としたことも今回の回収率の一因かと考えております。

ただ、今回の調査におきまして、統計的な必要なサンプル数は確保できておりますので、調査結果自体には差し支えございませんが、今後同様の調査などの実施に当たっては、回収方法の検討等が必要になってくるかと考えております。

具体的な調査結果につきましては、別紙1、冊子としてお配りさせていただきましたので、後ほど御参照願えればと存じます。

今後につきましては、この調査結果から考察をいたしました教育に関するニーズや課題を踏まえ、教育推進プランの改定を進めてまいりたいと考えてございます。

説明は以上でございます。

本 多 教 育 長 本件について質疑願います。

鈴木委員。

鈴 木 委 員 やはりこれは回収率の問題が一番大きいと思うんですね。それで、80%から15%ぐらいに下がったというのは大問題で、前のやり方のほうがよかったんじゃないかということが数字で出てしまったんじゃないかと思うんですが、その辺は、私は回収率が高いほうが絶対いいと思っているんですけれども、これは見直していくんでしょうか。

本 多 教 育 長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 まさに回収率というところ、かなり大きな数字になってございます。先ほども御説明差し上げましたとおり、前回は学校を通じて配布し、回収をお願いしたということでの高い回収率があったのかなと考えてございます。なるべく教員・学校の負担軽減、あるいは回答のしやすさということも考えてのウェブという形でしたところでございますけれども、どのように今後の調査をしていく上で、回収率を確保していくかというのは、一つ課題になってくるかなと考えてございます。

ただ、繰り返しになりますけれども、この調査結果自体は、いわゆる統計的な手法ではサンプル数として満たしています。これだけで子どもたちですとか、そういった意見、これをもって意見聴取を終了するわけではなくて、先般も御説明しましたけれども、来年度、いわゆるアウトリーチですとか、あとはワークショップ型、あるいは子ども議会というような会議体も考えてございますが、そういったいろいろな形を通じて子どもの意見を聴取した上で、プランの改定に反映したいと考えているところでございます。

以上でございます。

本 多 教 育 長 ほか、いかがでしょうか。
安部委員。

安 部 委 員 まず、今の調査の方法なんですけれども、保護者向けじゃなくて、一般の区民の方は紙も受け付けているということで、一応確認なんですけれども、ウェブと紙と重複で登録するようなことはないように、何かできているんですよね。

本 多 教 育 長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 回収する際に、そちらは確認してございます。重なっているところはなかったということでございます。

本 多 教 育 長 安部委員。

安 部 委 員 では、調査結果のほうの話に入ってもいいでしょうか。
こちらなんですけれども、結構あるんですが、まず順に行きます。20ページ目の問10、各項目比較というやつです。質問のことについてなんですけれども、バリアフリー・ジェンダーフリーの設備についてという問合せなんです。個人的には、バリアフリーとジェンダーフリーは全然違う設備の気がするんですけれども、なぜこれは一つというか、

こういったものみたいにまとめたのか、その意図みたいなものは何かあるのでしょうか。

本多教育長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 こちらは説明がなかったのですけれども、まず、基本的にはお手洗いですね。あとは、こちらの考えの中で、例えば更衣室的なものですとか、そういったいわゆる性別、あるいは使用する方にとっての使いやすい、あるいは自由に使えるという内容での、こちらの設問ということになってございます。

以上です。

本多教育長 安部委員。

安部委員 ありがとうございます。

では次、23ページ目の問13なんですけれども、江東区の教育環境は充実していますかという問合せで、すごく残念だったんですよ。「どちらともいえない」が57.1%で、これは、僕はよく分からなくなっちゃったんですけれども、率直にどのように御判断されているのかなというのが知りたいです。

本多教育長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 こちらの23ページのところですけれども、確かに「どちらともいえない」が一番多いんですが、これは実は区民向けのアンケートの結果でございますので、一つ考えられるのは、江東区民向けも無作為に抽出していますので、正直なところ、学校ですとか教育環境について、それほど深く関わっていない方ですと、どちらとも言えない、ほとんど分からないという状態なのかなというのが一つ考えられるところでございます。

本多教育長 安部委員。

安部委員 ありがとうございます。そういった意味では似ているのかな。分かりました。

あと、次、29ページ目の問19、地域と学校の連携について、どう思いますかというところなんですけれども、連携を進めたい派と、イメージが分からないという人が、大体同じ数字なんですよ。

結局これは、連携のイメージが分からない人というのは、御自身が多分幼少期に、地域からの恩恵を受けたりというのをあまり感じていない。本当は感じているはずなんですけれども、実感として湧いていない人な

のかなと思うんですね。

この方々に理解を得ないと、こどもの教育はうまくいかないと僕は思っているんですけども、それはもしかしたら教育委員会の守備範囲外になってしまうのかなと思うんですが、この御質問を入れたということは、何らか正そうとするとか、いい方向に持っていかうとするからこそ、これを質問したのかなと思うんですけども、その辺の意図というのはどうなりますか。

本 多 教 育 長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 こちらの質問ですけども、まさに今いただいた御意見のとおり、学校と地域がこれからも連携して深くやっていくべきだという考えで、実際に皆さんがどのように考えているのかという内容を確認するためのものがございます。こちらも区民向けのものでございますので、実際に学校と詳しく関わっていない方は、どうしてもイメージが分からないということになるのかなと、これからもう一つ分析をしていく必要があると思いますが、そういうのが考えられます。

一方で、保護者向けに同様の調査、設問がございまして、113ページになります。同じく、地域と学校の連携について、あなたはどのように思いますかということで、保護者向けのアンケートの設問が載っておりますが、こちらにおいても、分からないというところが27.6%ございますが、一方で、うまく連携しているというのが41.7%ということで、そこは実際にどのぐらい学校と地域が連携しているかというのを目の当たりにしているかどうかということでの、若干差というのも考えられるのかなとは考えるところでございます。

しかしながら、こちらの実際のところで、一般の区民向けのアンケートで、イメージが分からないという方が約3割いるということですので、そちらについては、一つ課題となってくるのかなという分析が得られたところでございます。

以上でございます。

本 多 教 育 長 安部委員。

安 部 委 員 ありがとうございます。ぜひプランに反映していただければと思います。

今度、こどもたちのほうで44ページ、問8、学校の授業は分かりやすいですかというやつですね。これは何なのかなと思っちゃったんですよ。分かりやすいかどうかは、基本的にはテスト結果で定量的に分かるものですよ。それとは違う、分かりやすいですかと聞くというのは、質問の意図としては何を聞いているんでしょうか。

本 多 教 育 長 庶務課長。

瀧澤 庶務課長 こちらはまさに小中学生向けということで、実際の確かに成績、学校の授業の反映と言えば、テストの成績等になるかと思えますけれども、こどもたちが主観的に、まずどのように受け止めているかということ、これまでもそういった調査は小中学生向けに、前回はしていなかったところですので、一つそういうところで、どう考えているのかという意味での設問となっているところでございます。

以上でございます。

本 多 教 育 長 今回の質問のところですが、分かりやすいですかという質問に対して、こどもたちがどう受け止めるかというのがまず一つあると思っていて、安部委員おっしゃるように、テストの結果というところはどう捉えているかということ、こどもたちは一般的にテストの結果は、できた・できないというところで捉えていて、授業に対して分かりやすいかということ、授業の中身の中で、これは難しいね、先生の言っていること、よく分からないなと思っちゃうか、学校の授業は言っていること、よく分かるよという、そういう感覚的な問題だと思うんですね。

なので、今、庶務課長が説明したようなところだとは思いますが、これはまさに、安部委員が多分、ん？ と思っただけなのは、感覚的なところでいいのかなということと、あと、先生方のそれぞれの授業だったり、様々なことが考えられるなということだと思うんですが、その一般的な傾向を取っていると捉えていて、これをどうしていくかということですね。

私はこれは、教育推進プラン・江東に生かすこともあるんですが、教育推進プラン・江東で大事なものは、現場の先生方がそれを受けて、どう進めていくかなので、僕は今回のこどもたちの結果というのは、先生方にしっかりと返すべきだなと思っているんです。そうすることで、計画に反映することのみならず、計画を実施していく中で、こどもたちにちゃんと届いているかどうかということが大事なので、この結果を我々は計画をつくることに参考にする、だけれども、この結果をちゃんと先生方にも届ける。僕はそこが大事かなと捉えています。

と思っと思いますが、いかがでしょうか。いいですか。

安部委員。

安 部 委 員 まさにそういうことでして、なので、プランとは別で、「よくわかる」と「まあまあわかる」で大半を占めているわけですね。7割5分以上。なので、日頃から教育長が、いい授業をしてくださいねというのは、まさに反映されているんじゃないかなということなので、プランに反映す

るというより、むしろ同じなんですけれども、先生方にぜひありがとうございますと伝えてほしいなという感じでございます。

次に行っていていいですか。

本 多 教 育 長 どうぞ、安部委員。

安 部 委 員 47ページの、自分から進んで学習したいと思えるのはどのような授業ですかというところなんですけれども、多分これはこの後にも続くんですが、運動みたいなものの基本的な定義が、こどもたちにばらついているなというのが実はあったんですけれども、それを踏まえて、この中で、体力をつける運動というものがすごく多かったですね。だから、こどもたちは運動をしたがっているということが分かりますよね。

これは大事かなと思っているんですよ。これは多分、男女差はあるとは思いますが、もし分かれば教えてほしいです。

これは今までの取組の成果と考えているのか、それとも、さらに何か変えなきゃいけないと判断しているのか、教えてほしいです。

本 多 教 育 長 庶務課長。

瀧 澤 庶 務 課 長 男女別につきましては、クロス集計はかけているのですが、こちらの47ページの上のところですね。文字で書いてあるところで、男女別ではというところがございますので、そちらを御参照いただければと思うんですが、男子と女子の比較で、男子は体力をつける運動が最も高く、次いでタブレットを使って。女子は職場（仕事）体験が最も高く、次がタブレットということで、こちらに高い順で男女の比較ということでの掲載をさせていただいております。

こちらの全体の今後の傾向は、まさにこれから分析をしていって、これでプランに、あるいはどのような形で反映していけるかということが考えられるんですが、まず、これは幾つでもいいですよということですので、かなりそれぞれこどもたちからも広く、やってみたいこと、あるいは学習してみたいことというのが、それぞれかなり高いところで4割以上に達していますので、そういったところを踏まえて、ここでどういう形で学校の教育を進めていくべきかというところの分析に、一つなるのかなと考えてございます。

本 多 教 育 長 今、安部委員がおっしゃってくださったのは、ここに着目されたのは僕もそのとおりだなと思っていて、実は、自分から進んで学習したいというのをこどもたちがどう捉えているかというのはすごく大事なことで、今、安部委員がおっしゃってくださった体力をつける運動については、庶務課長から回答があったように、ちょっと男女差はあるということで

した。

そういったこともなんですが、例えば、タブレット端末を使ってが一番多くて、2番目が体力をつける運動が多くて、3つ目が自然の中での体験。実は上から3つをよく見ていくと、こどもにとってわくわくするような体験、学習、楽しい学習、そして自分でできそう、自分でできるみたいな、そういう感覚のある学習が上に並んでいるんですね。

なので、先ほど来言っているように、こういったことがこどもたちの学習を活性化したり、こどもたちが主体的に学んでいくときには必要だということ、まさに教育をする先生方に理解してもらうことが必要だと思っていますので、先ほどと同じになりますけれども、これをちゃんと現場に返していくことが重要というのと、ただこれは、我々がプランを立てるときにもすごく重要だなと思っていますので、先ほど庶務課長が述べたように、ちゃんと分析をして生かしていくことが必要だと思っています。ありがとうございます。

安部委員。

安部委員 次のページの48ページなんですけれども、どのような学校だと勉強や生活がしやすいと思いますかと。ここは、僕はふだんから思っていることなんですけれども、トイレがきれいが64.6%。これ、私の頃は自分で掃除していたんですよね。個人的にはぜひ、自分が使うトイレは自分で掃除をさせてほしいというのがあります。衛生面とか、いろいろな問題があるかと思うんですけれども、なので、裏では主事さんが基本的にはやってくださっている。それでも、その上からでもいいから、トイレをきれいにするという気持ちは持ってほしいなと思っています。

あと、教室が明るいというのは、ほとんどの学校で既に実現できていて、だから今、いいよと思ってくれているのかなと思うので、これは多分、今こんなにいい状態なんですというのをこどもたちが言っているのかなと思っているので、学校に携わってくださっているあらゆる方々のおかげかなと思いました。なので、ここは特にトイレについてだけお願いしたいということで、プランとは直接関係ないんですけれども。

次の49ページなんですけど、どのような先生が好きですかと。これはめっちゃくちゃ難しいんじゃないかと思っていまして、今、嫌な先生でも、将来振り返ったらありがたかったとかは幾らでもあるわけで、結構近視眼的に見てしまうと微妙になってしまうというのは、多分、分かった上でやっていらっしゃるんだろうと思っているんですよね。

なので、逆にこれを踏まえるのは難しいんじゃないかなと思っているんですけれども、これは何を期待されているのかなというのがあれば教えてください。

本多教育長 庶務課長。

瀧澤庶務課長　まさに今回、小中学生向け初めての調査ということで、いろいろなところを参考にしながらつくったんですが、一つは先ほどの授業と同様で、今度、学校はどういう授業をしていくべきか、どういうところに反映していけば、こどもたちに喜んでもらえるか、あるいは快適に学校で過ごせるのかといったところでの、まず一つ、内容があるかと考えてございます。

確かに、どのような先生が好きですかというのは、かなりざっくりとした聞き方で、しかも聞いておきながら、それぞれ設問である程度、枠にはめてしまった回答になってしまっているんですが、ただ、回答の状況を見ますと、こちらも幾つでも答えて構いませんということでの回答形式ですので、いずれもそれぞれ高い率、6割以上のものの設問というものが上から5点ありますけれども、いずれもこどもたちにとっては、そういうところでの授業あるいは先生というものが目指すべきところだということ、一つ、この内容から見えてまいるかかと考えてございます。

こちらにつきましても、直接プランにどう反映していくかというのは、なかなか直接これを書き込むとかいうのは難しいかもしれませんが、小中学生が学校あるいは教員に対してどういうことを望んでいるか、あるいはどういうところで快適に、あるいは適切に学んでいけるかという環境を、こちらのほうから分析・推察ができるのではないかと考えております。

以上でございます。

本多教育長　安部委員、よろしいですか。

安部委員　ありがとうございます。

本多教育長　ごめんなさい。今の件でいいですか。

今の件で、庶務課長が言ったように、あるものから選んでもらっているので、これは選択肢の用意の仕方というのがすごく重要だと思っています。今回の、どのような先生が好きですか、または理想だと思いますかというのも、こちらはこの選択肢しか用意していなかったところが、僕は今後考えていく部分では大事ななと思っていて、これ以外にも実はあるはずなんです。

今、安部委員がおっしゃったように、例えば今は近視眼的に見るとあまりいいと感じなくても、将来的に感じるということもあるかもしれない。あと、自分に近いことに対してのプラス面はないんだけど、広く全体に対してのプラス面があるとか、そういう選択肢から考えていくと、結構自分に近い選択肢が多いなと僕は思うので、例えばクラス全体

のことを考えてくれるとか、学校全体のことを考えて、よりよいことを何とかしてくれるとか、そういったものは選択肢の中にはないんです。なので、これは一つの選択肢の、この中で考えるとこういう傾向があるという捉え方を、しっかりしていく必要があるだろうなと思っています。

ただ、傾向的に見ると、自分に寄り添ってくれる先生がいいというのは、傾向としては見えてくるところはあるだろうなというのと、ただ、一番多かったのは、みんなに公平にという部分があって、やはり子どもたちはそういったことはすごく大事にしているんだなというのをここからは得られるのかなと思ったところであります。ありがとうございます。

鈴木委員。

鈴木委員 僕もこの項目の中で、スポーツを入れると全然答えが変わってくるんじゃないかと思うんですよ。サッカーを教えてくれるとか、スポーツをやってくれるとか、それからすごく上手だとか、そんなのを入れると、勉強が多いけれども、さっきもちょっと運動の話が出ていましたから、それを入れるとまた面白いんじゃないかなと思いました。

本多教育長 ありがとうございます。それ以外のところでも、実は自由記入欄というのがあるので、その中に、ここには出てきませんが、そういったことのフォローにはできるかなと思います。ありがとうございます。

多分、ほかの項目としては、例えば一緒に遊んでくれるとか、そういったものも傾向としてはあるのかなと思っています。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

安部委員。

安部委員 すいません。続きまして、P51、問15ですけれども、学校で悩んでいることはありますかというこれ、急に重たい話を差し込まれて、これはアンケートレベルというか、緊急アンケートというか、ちょっとびっくりしてしまっただけですけれども、家族の世話や看病で忙しい、一つあるんですね。

あと、話したいことや相談したいことを大人が聞いてくれない。大人が聞いてくれないですよ。それが10名いるということですよ。抜粋にもかかわらず10名もいるというのは、極めて重たいんじゃないかと思ってしまって、これは、ゆっくりと分析しましょうとかいうのと違う次元のものがここに登場している気がして、これはアンケートかもしれないけれども、直接拾ってあげなきゃいけない部分はないのかなと思っちゃったんですが、これはどう判断されますか。

本多教育長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 確かにこれはそれぞれの内容で、今回はアンケートではなくて、個別の児童生徒に対する何か緊急的な案件ではないかという、まさにそのとおりかと思いますが、今回のはあくまでもサンプリング調査という形ですので、人が特定できないというところが1件挙げられます。

ただ、悩んでいることはありますかということで、これはどういう質問意図かということ、今のお話のとおり、誰かに悩みがあるというのがまず前提として、その次に、具体的に悩みを相談できる人はいますかということでの設問につなげる相談体制ですね。今後どのようにしていくべきか、今のやり方でいいのかというところの分析の前段として、そもそもまず皆さん、悩みは何か、学校や生活のことでありますかというところでの問いという形になってございます。

実はこちらは、先ほども教育長からもありましたけれども、その他という自由記述欄がありまして、かなり多彩な、こちらの枠内でも書いてありますけれども、内容になっているところです。

また、全体の調査の中で、設問以外に自由回答欄というところがありまして、そちらのほうは集計がかなり細かくなってしまうので、件数、それぞれの該当カテゴリーごとの集計のみになっていますけれども、そちらについてもかなり個人的なといいますか、ふだんの学校生活ですとか、あるいは家庭の状況、学校の先生に対することも、かなり個別の御意見というものもいただいたところですので、実際そういう形の悩み事がある場合に、いかに例えば相談体制を整えて、相談につなげていくか、あるいは改善を図れるかというのをいかに持っていくかというのが、一つ今回の調査の中からも、今後のプランの中に反映する1個の課題ということになってくるのかなと考えているところでございます。

以上でございます。

本多教育長 ありがとうございます。

この項目は、今、庶務課長が言ったように、次につなげていくまさにプランとして、何が必要かという部分について出してくるので、こどもたちの悩みをしっかりと拾っていく。

今でもチャット相談をやったりとか、やっているところではありますけれども、それでも拾い切れない場合に何をするかということだったりとか、今のこどもたちの状況を考えていくと、新たなことをしっかり考えていかなきゃいけないだろうなというのはすごくありますので、そういった部分では、一人一人が個別に対応というのは難しい現状ではありますけれども、この状況を踏まえて、その子たちにもっとアプローチできるようなことをしていくことが必要なのかなと思っています。

おおむね悩んでいることはないという子が多かったというのが、少し安心したところではありますけれども、丁寧に見ていく必要があるかな

と思っています。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

安部委員。

安 部 委 員 ありがとうございます。

59ページ目の「Challenge Wednesday」についてなんですけど、指導室長に聞きたいんですけども、10%の子が、特に何もしないという回答をしているんですよ。これは対策をすべきとか、自由な発想で好きにしていよというの、いろいろ考え方があろうと思うんですけども、どのように思われますか。

本 多 教 育 長 指導室長。

金 指 指 導 室 長 アンケートの結果ではこのように出ておりますけれども、もしかしたらこの時点では、こういったお子さんが答えられなかったというところもあるので、その都度、年度が替わるごとにも、Challenge Wednesdayについては学校からお知らせしてもらっていますので、改めて活用方法については周知していきたいなと思っています。

本 多 教 育 長 安部委員。

安 部 委 員 ごめんなさい。基本的なことでは申し訳ないんですけども、Challenge Wednesdayは先生がクラスの子に対して、自主的にいろいろなことをやりなさいよと言っているだけで、どんなことをしているかまでは拾っていないものですか。

本 多 教 育 長 指導室長。

金 指 指 導 室 長 学校のほうではそういった投げかけをして、どんなことをしたか、強制ではないですけども、学校によっては、その中のものを発表会でみんなに周知してもらったり、教室ごとに、今回何をやったのということで成果物を出してもらって把握したりということはしているところです。

本 多 教 育 長 Challenge Wednesdayについては、まさに主体的に学ぶ水曜日と言っていますので、我々は何をしなきゃいけないかということ、主体的にこの時間をどう過ごせばいいかということについて説明をしてあげることと、あと、例えば今、安部委員がおっしゃった、特に何もしていないという子については、こんなことができるかもよということを教えてあげたりとか。

行政として何が必要かということ、受皿を増やしていくことは必要だと

思っているんですね。こどもたちが、これは魅力的だな、水曜日の午後にやりたいなと思うものが増えれば、こどもたちもやりたいものが出てくるだろうと思いますし、そんなものがあったとしても、私はやりたいことが決まっているので、やりたいことをやる、それもそれですばらしいし、そうだと思いますので、これを見て、我々が次にどうつなげていくかで、まさにこの計画に反映できることではあるだろうと思っています。

何がいい、悪いというのはなかなか主体的なので、言えないところもありますので、いろいろな選択肢を増やしていったり、そういったことを伝えていく。それについては、今指導室長が言ったように、各学校でこんなこともできるみたいよ、こんなことをやっている子がいるわよというのは結構学校でやってきているので、それで、ああ、そうか、じゃ、やってみようかなと思えるというのはいい取組かなと思っています。

ただ、Challenge Wednesdayをすることによって、こどもにも先生方にも負担が増えてしまうようだと、それはまたちょっと違ってくるので、そうなり過ぎないようにというのは気をつけて見ているところではあります。

以上です。

安部委員。

安 部 委 員 ありがとうございます。ちょっと伝わり方がミスっていたかもしれないんですけども、個人的には、自分は夏休みとかに入ると、圧倒的な暇な時間が押し寄せて、どうしていいか分からなかったんですよ。でも、その孤独の時間が自分を生かしてくれているというか、今に至っているんじゃないかと思っているので、何でもかんでも理詰めであれこれシステマチックにやるというのが必ずしもいいとは思っていないので、今教育長がおっしゃったように、選択肢としてあるよと。あとは好きにきなさいよと。

孤独である時間も別に大切ですし、何もしないこともいいのかなとも思っていますので、どちらかというところそういう子なんだというのを先生がちゃんと把握してくれていれば、見守れるかなと思っただけでございます。

次、いいですか。

本 多 教 育 長 安部委員。

安 部 委 員 61ページ目の問25、これはさっきの話にちょっと戻るんですけども、運動の件ですね。先ほどこどもたちはめっちゃめっちゃ運動したいと言っていた割には、実態として、ほとんどしない、15分ぐらい、30分ぐらいで半分を超えちゃっているんですよ。これは受験を控えている小6とか中3とかが入っているといういろいろあるのかな、時期的な問題

もあるのかなとは思いますが、どうも矛盾しているように思う
んですよね。

さっきも言いましたけれども、運動するということと、スポーツをす
るというのを、もしかしてこどもは分けているのかなと。運動というの
は、自分でランニングをすとか、単に友達と遊ぶみたいなものを運動
と捉えているのか、その辺が自分には分からなかったんですけれども、
プラス、学校以外で自由に遊べる環境がないということ、もしかしたら
意味しているのかなと思ったんですが、これはどのように解釈してい
らっしゃるでしょうか。

本 多 教 育 長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 確かに、実際のこちらの結果を見る限りでは、実際に運動をほとんど
しないから、30分ぐらいまででほぼ半数以上を占めているという状況
で、ただ一方で、保護者に対して、82ページになるんですけれども、
一つこれが分析のヒントになるのかどうかというところなんです、問
11として、あなたのお子さんは学校授業以外で運動やスポーツをして
いますかということで、保護者への設問をさせていただきます。

こちらの中でも、まず、何もしていないというのが35.7%ある一
方で、民間スポーツクラブや道場等に通っていると回答した保護者が3
5%、また、地域のスポーツチーム、学校の運動部ということでそれぞ
れ書いてありますので、こういう中での運動というところが今回の設問
に対する考え方になっているのかなというのが、一つ分析といえますか、
考えられるところでございます。

以上です。

本 多 教 育 長 安部委員。

安 部 委 員 すいません。よく分からないんですけれども、運動とスポーツを分け
ているという意味ですか。

本 多 教 育 長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 具体的にお子さんたちが問25に対してどのように受け取ったかとい
うのは、あくまでも推測になってしまうんですが、保護者からの回答を
考えると、ひょっとしたらそういうところで、学校の授業以外での運動
をスポーツと捉えていた、習い事等でと考えていたという可能性はある
かなと見ております。

以上です。

本 多 教 育 長 安部委員。

安 部 委 員 すいません。これは結果としては、ふだんもっと運動してくださいよという方向に持っていくのか、行政として、学校としてもっと運動するようなイベントを増やしたり、授業を増やしたりということなのか、どうということになりますか。

本 多 教 育 長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 どちらも考えられると思います。具体的にこどもたちが、運動の時間がこの状況だというのをまず現状として把握できたので、今後、教育推進プランの課題としてもありますけれども、運動に興味・関心を持って主体的に体を動かすことが好きな態度を養うというのが一つ、施策の方向性としてありますので、今後、例えばこれから方向性としては、運動に慣れ親しむことができるような取組を推進していくというような、そういったところが一つ方向性として想定されるのかなと考えます。
以上です。

本 多 教 育 長 この質問は、いろいろな考え方はあると思うんですけども、学校の授業や登校以外でという言い方をしているので、それ以外のところで、要するに、別に運動しているか。

この運動が、安部委員おっしゃるように、何を捉えているかというのは微妙なところなんですけれども、こどもたちは多分この中に、遊びを入れているか、入っていないかなんですよ。ここはスポーツと運動というよりは、遊びが入っているか、入っていないか。外でこどもたちは遊んでいることを運動として捉えていなければ、またこのところはしっかり分析していく必要があるんですね。

今言われている部分では、こどもたちが体を動かす時間が授業以外にどれくらい取れているかというのがとても注目されているところで、これはこどもたちの体力向上につながることでして、このことが、我々がずっとつなげてきている長チャレとかに行くわけですね。要するに、体育の授業以外で意図的にこどもたちが運動に親しむ時間をつくってあげないと、なかなか運動しないので、ああいった取組をしているんですね。

これが結局、こどもたちの回答に、まさに今もそうだなというのがここで分かるということなので、こどもたちの時間が忙しいと言われていたりとか、様々な中で、また遊びのスペースがないとか、そういったことも含めて、この回答を多面的に見て、僕らは考えていかなきゃいけないだろうと思っています。

ただ、庶務課長が言ったように推測でしかない部分もあるので、何と

も言えませんけれども、授業以外での運動はやはり少ないんだなという認識にはこれであるだろうと思っています。それをどうしていくかという部分では、さっき言ったように、プランの中に直接入れていくことも大事だし、授業の中だけでも運動をしっかりさせましょうねということも一つあるんですね。

なので、今江東区では、授業の中で必ずそういったところを入れましょうということでのウォームアップタイムであったりとか、わくわくタイムであったりというのを入れているので、そういったところにつなげていく、多面的に僕は見ていく必要があるかなと思います。

安部委員。

安部委員 ありがとうございます。

62ページと、63ページにつながるんですけども、62の問いで、習い事や部活動、クラブ活動というのが圧倒的に多いんですね。運動しているじゃないかと思っちゃったんですけども、これを考えたら、学校やクラブ活動外でということなので、今教育長がおっしゃったように、こちらからできる活動としては、十分運動はしてくれる環境ができていないのかなと思いました。

63ページの、部活動以外でよくやるスポーツは何ですかというやつなんですけれども、これは、これを問い合わせて何につなげようと思いいんでしょうか。

本多教育長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 こどもたちが体を動かすときにどういうスポーツをやっていますかというのを、まず広く捉えたいところが1点ございます。その中でも球技（団体）ということでは、一番取り組んでいる、あるいはこどもたちがやっているものが、この順番になっているのかなということで受け止めております。

これをどのように計画にストレートに反映していくかというのはなかなか困難ですけども、今後例えば部活動以外で、こどもたちが特にやっているスポーツはどのようなものがあるのかとか、授業以外でやっているものはというのが、まさにここで数値として出てきているものですので、何かスポーツ施策なんかを反映していく際には、こちらは一つ参考になるのかなという受け止め方をさせていただきます。

以上でございます。

本多教育長 よろしいでしょうか。安部委員。

安部委員 ありがとうございます。次、行きます。

66ページの、将来どのような大人になりたいと思いますかというやつなんですけれども、これはすごく設問がいいなと感じました。こういうポイントは大事なかなと思ったので、すごく検討してくださったなと感謝します。

67ページ、隣の区立図書館の件なんですけれども、利用目的みたいな……。ごめんなさい。利用の設問ですね。もうネットで本の利用も可能になり始めているので、徐々に、どのぐらい利用していますかというのはどうなんだろう。ネットで使っている場合はどうなんだろうと思う人もいるかなと思うと、何となくこの設問はそぐわなくなりつつあるのかなと思うんですけれども、どうでしょうか。

本多教育長 江東図書館長。

吉木江東図書館長 安部委員おっしゃるとおりで、時代によって設問を変えるべきだなと思いますが、これまでの聞き方との比較と、ここの検証のために、あえて同じ質問を繰り返させていただいておまして、区立図書館が始まって2年ぐらいたちますので、その都度、設問については検討していきたいと思います。

また、来年度、図書館の計画策定もありますので、それに合わせて、設問の変更等も引き続き考えていきたいと思っております。

以上です。

本多教育長 安部委員。

安部委員 ありがとうございます。図書館は次の33の問いとかでは、電子図書を増やしてほしいとか、変えてくださっているの、それでいいかなと思います。

図書館を利用する目的とかで、この結果を受けて、想定と大分外れていたとか、そこから受けて今後の検討に生かせようかなというものは何かありましたでしょうか。

本多教育長 江東図書館長。

吉木江東図書館長 これまでも図書館アンケートであるとか、そういったアンケートを踏まえまして、私の感覚でもあるんですが、例えば設問32の目的については、本やCDの貸出しにつきましては、どの年代でもこちらが1番でございまして、その他、勉強・学習の場所につきましては書いてはございますが、そういったところで、例えば小中学生では本やCDの貸出しが一番上だったり、あと、中学生が勉強・学習の場所とされてございまして、そういうところは想定よりも外れていたわけではないんですが、

それに合わせた計画策定であるとか環境整備については努めていきたい
と思ったところでございます。

以上でございます。

本 多 教 育 長 ありがとうございます。
ほか、いかがでしょうか。
安部委員。

安 部 委 員 ありがとうございました。
P70ページのかなえてほしいことというのは、多分、最初から自由
記載ということなのかと思うんですよね。なので、ここからは知り得な
かったんですけれども、今の図書館と同じになってしまいますが、具体
的に言えることがあれば、想定以上のこととか、今後の計画に入れても
いい、入れなきゃまずいかなという御意見みたいなのは何かありました
でしょうか。

本 多 教 育 長 庶務課長。

瀧 澤 庶 務 課 長 こちらは今回、自由記述ということで、カテゴリーごとに分けたもの
でございますが、内容についてはかなり多彩です。正直、こういった傾
向があるとかではなくて、先ほども御説明しましたが、例えば家の近く
に遊ぶところがあればいいとか、そういうお願いですとか、あるいは、
自分が今通っている学校の、例えば教室ですとか授業についての個人的
な悩みとか考えですとか、あとはお友達のことですとか、かなり本当に
自由な記述になってございました。

ですので、こちらであくまでも参考ということで書いていただいたん
ですが、一つ言えるのは、そういういろいろな子どもたちにも、思いで
すとか悩みもそうですし、こうしてほしい、かなえてほしいという希望
ですとか、そういうものをかなり多彩に持っていて、こういう機会の中
で自由に記述をしてもらえているというのは、一つ大事にしていかなけ
ればいけないのかなと思っております。

先ほどもお話を差し上げましたけれども、来年度、いわゆるワークシ
ョップですとか、あるいはアウトリーチ、こちらから意見を聴くという
形で、子どもの意見をこれからも多様な形で聴いた上で、計画に反映し
ていきたいと考えていますけれども、一つ大事なのは、そういったこど
もたちの意見というものをどこまで酌み取れるか、あるいは、全てそれ
をそのまま計画に反映するというのはなかなか難しいので、そういった
ところから重要なエッセンスといいますか、大切にしたいところという
のをいかにすくい出せるかというのは、今後、計画策定の中でも、我々
も大切に考えていかなければいけないところだなと考えたところござ

います。

以上でございます。

本 多 教 育 長 ありがとうございます。
ほか、いかがでしょうか。
安部委員。

安 部 委 員 すいません。ありがとうございます。よく分かりました。
これは確認なんですけれども、83ページの、多分これは向こうから
来ているそのままだと思うんですが、その他の具体的な内容、お子さん
が学校の運動行事で特に興味を持っているのは何ですかというページで
すけれども、その他の中にナイトフォークと書いてあるんですが、これ
は誤字かなと思うんですけれども、小松橋地区対でやっているものかな。
 （「ナイトウォーク」と呼ぶ者あり）

安 部 委 員 ナイトウォークかなと。分からないです。もしかしたら何かあるのか
かなと思ったんですけれども、いずれにしても、これは学校の運動行事と
かとはちょっと違うんですが、御意見なので、混乱があるかなと思って
いますけれども。

91ページの、今度は保護者様ですよ。お子さんが将来に向けて身
につけてほしいと思っていることは何ですかというもの。こういうのは、
設問を多分、基本的には全部見てくださって、丸をつけてくださるとい
う意味では、出す側も、どういう意図で頑張っているんですよというの
を、ここで伝えられる部分はあるような気がするんですよ。

そういう意味では、これは個人的にはなんですけれども、もうちょつ
と江東区を愛する気持ちとか、そういうのを養ってほしいみたいにやると、
こっちはそのつもりなんですよというのが示せると思うんですよ。
とか、国旗掲揚とか、国歌を歌うのもそうなんですけれども、日本の成
り立ちやこの国のよさとか、国を愛する心とか気持ちみたいなものの醸
成みたいなものに、基本的には努めているんですというのを、何か選択
肢に入れてほしかったなとか、実際にやってくさっていることが
あると思うので、それが伝わったほうがいいかなと思いました。今は別
にそう思った感想で、すいません。

105ページの、地域との交流スペースというやつなんですけれども、
すいません、僕はよく分からなかったんですが、具体的にはどのような
イメージなのか教えてほしいです。実施しているところがもしあるなら、
何か分かると思うんですが。

本 多 教 育 長 学校施設課長。

西尾学校施設課長 学校を計画する際に、地域との交流スペースというところでは、専ら

P T Aのお部屋であったりとか、それに隣接した会議室でありますとか、例えば多目的室ですね。そういったところの連携も含めたところで対応を考えているところでございます。

以上です。

本 多 教 育 長 中には、1階スペースに地域との交流を意識したスペースというものを設けているところもあったりとかはあるんですね。そういったところで、1階だと地域の方も来やすいのだからという部分で考えたりとか、そういったところはあるので、こういった部分での御意見の一つの参考になるかという意味での質問かなと思います。

安部委員。

安 部 委 員 次、108ページなんですけれども、これは質問が長過ぎて、前半は納得できるけれども、後半は違うかなとか思うと、質問の答えに窮するかなと。

例えば、郷土意識を持って国際社会を生きる人間の育成というのは、郷土意識を持つ人材育成と、国際社会を生きる人間の育成は別なのかなと思うんですけれども、それを組み合わせちゃっていると、僕は自分がやるとしたら、止まっちゃうような気がするんですけれども、それなりにすごくこれは検討がされている、一つ一つ言葉が重たいんですが、これは何か出どころはあったりするわけでしょうか。

本 多 教 育 長 庶務課長。

瀧澤庶務課長 基本的には現在の推進プラン、また、これは実は前回、令和2年のときの設問と、基本的に同じものを入れさせていただいたところになっていまして、それ以前のプランも踏まえた上でのものになってございます。

ちなみになんですけれども、前回の令和2年の調査と今回の調査結果で、基本的に高い順、上から回答が多かったものというのは、順位は変わってございません。基本的には、こういったものをふさわしいと思うというふうを選んでいただけているのかなというところで、前回との比較の考察になっているところでございます。

以上です。

本 多 教 育 長 安部委員。

安 部 委 員 ありがとうございます。プランを立てるためには、前回と比較する意味で、同じ内容とせざるを得ないというのは理解できました。

あと、113ページなんですけれども、地域と学校の連携関係ですね。ちょっと寂しい意見が多いかなと思いつつも、学校のことについてが

基本になっているので、P T Aという言葉が一つもないのは、非常に違和感があるんですね。その他の中には、P T Aが介入し過ぎているというのがあったというんですけれども、介入するものなんですよ。基本的には一緒にやっていくので。

それで、その辺は知ってほしいので、できればP T Aについては入れてほしいなど。前回もなかったのが逆に衝撃なんですけれども、御検討いただければと思っています。

調査結果、現状と課題なんですけれども、1 2 2 ページの運動のところ、3 の健やかな体の(2)ですね。運動に慣れ親しむことができる取組の検討・推進というのは、先ほど教育長がおっしゃったようなことになるのでしょうか。放課後のことなのか、学校のことなのか、どういう取組を意味するのかなというのがちょっともやっとしたんですが、どうでしょうか。

本 多 教 育 長 庶務課長。

瀧澤 庶 務 課 長 あくまでも今回、こちらの調査結果に基づいての課題、方向性ということですので、これをどのように今の、例えば放課後なのか、授業中なのかといった形で進められるかというのは、まさにこれからプランの中で、この現状と課題を踏まえてどのように進めていくかというところの、まず基本の資料ということでの表記になっているというところでございます。

本 多 教 育 長 安部委員。

安 部 委 員 最後です。すいませんでした。

次の1 2 4 ページの地域のところなんですけれども、(2)の地域連携のところですね。地域学校協働本部の活動の広報となっているんですけれども、すごくこれは違和感があって、自分も協働本部に入ってはいませんが、学校の困り事なんかを助けたりというほうに強く意識していることがほとんどで、地域でこんな活動があるから学校に紹介するみたいな、そういう立てつけは今までなかったはずなんですよ。

実際に協働本部の人たちが、それを全部吸い上げられるようなメンバーかというところ、そこはまた微妙な気がしていて、ちょっと失礼かもしれませんが、つまり、この書き方だと、何か目的意識を持って、各町内会とか関係団体とか、そういう優位な団体から情報を収集して学校にフィードバックするみたいなことまで意識されているように感じてしまったんですが、そういう方向性では協働本部は考えていない気がするんですね。

これはまだ検討段階かもしれませんが、広報というのはどういう意図

になりますか。

本 多 教 育 長 地域教育課長。

大田地域教育課長 このアンケートの調査の結果の中で、地域と学校の連携のイメージが分からないという声が一定数ありましたので、連携の手法の一つである地域学校協働本部についても、まだ御存じない方もたくさんいるのかなというところで、そういった意味で、制度的な広報活動も必要ではないかという趣旨で記載をさせていただきます。

以上でございます。

本 多 教 育 長 これについては、実は地域学校協働本部のコーディネーターの方々と
の会議の中でもよく出てきていて、もっと知ってもらわなきゃいけない
と思っている方がたくさんいらっしゃって、もっと知ってもらうための
ことをしようという意見はいつもたくさん出るんですね。なので、多分、
安部委員が言っていられるところまでのことではなくて、まず知っ
てもらおうよということでの広報活動が必要だろうというレベルでこれ
は出ていると思うんですね。

実は学校にもそれは必要だよという話をしている、学校のホームペー
ジに地域学校協働本部のメニュー立てをするよという話をさせてい
ただいて、本当に地域学校協働本部の方々が頑張ってくださってい
るので、そこを知ってもらうためには、学校としてもそこは周知が必要
だよねという話をしていたり、地域学校協働本部の中には、積極的にP
Rするのが上手なとか、積極的にしたいと言っている方々もいらっ
しゃるので、そういった方々の取組をそこで紹介したりということもあ
るので、今課長が言ったように、イメージが分からないという方々の数
値に対して、ちょっと周知をしていこうというレベルだと捉えていただ
ければいいかなと思います。

以上です。

安部委員、もうよろしいですか。

安 部 委 員 ありがとうございます。大変失礼いたしました。

本 多 教 育 長 とんでもないです。
ほか、いかがでしょうか。
大久保委員。

大 久 保 委 員 私は感想みたいになってしまうんですけども、このアンケート結果
を全部見て、何ページと言えないんですけども、問い5の楽しいと思
ったことはほとんどないでちょっと悲しいなと思ったり、あと、友達と

という言葉がすごく出てきたので、悩むのも友達、学校が楽しいのも友達。やはり人間関係に小学生も中学生も悩むところはあるのかな。

あと、学校につくってほしいのは、友達と過ごせるスペースがあるのがいいとか、あと先ほど話題に上がった、運動をしていない子が多いなというのは私も感じて、でも、教育長が言ったのをつながってくるんですけども、長縄チャレンジの期間は、学校が終わってから長縄チャレンジの練習をする子がとても多いです。私は回しました。背が高くないので、回しましたし、あとスーパードッジボールが開催されているときは、みんなでドッジボールを放課後、やるんですね。

なので、学校の行事じゃないですけども、そういうのに結構運動量は左右されてきて、あと学校以外では、習い事というのはお金も発生してきますし、本当に悲しい話、お母さんが高いから習っちゃ駄目と言うというこどももいます。うちはダンスと体操とプールをやっていますけれども、「ダンスをやりたいんだけど、ママが高いから駄目だって」とか。そういうのはちょっとかわいそうだな、学校でもうちょっとダンスとかも踊らせてあげたいなとかも思うけれども、それもまた大変なんだなとか思ったり。

あと、大人が話を聞いてくれない、聞くときがないというのは本当に感じて、忙しいお母さんは、ちょっと待ってねというのが多かったり、この間、友達のママと、Challenge Wednesdayもすごくいい。うちは学校から、高学年まで1冊ノートが用意されて、自主学习ノート、何をやってもいい。漢字の練習をしてもいいし、うちは理科系が苦手なので、カブトムシの絵を描いて、これが羽だ、角だというのをやればと私が言ったら、それを楽しみに週1でやっている。

そのときにお母さんたちと、Challenge Wednesdayもいいけれども、「ねえねえ、最近どうよ」みたいな、こどもと話す日というのもつくったほうがいいよねと。「ねえねえ、最近どうよ」と。結構うちはこどもが集まるので、自分のこどもじゃないにしても、何かちょっと元気がないなというのと、「ねえ、どうしたの？ 最近どう？」みたいな。そうすると、「学校の友達がさ」とか話してくれたり。お話する時間は、お母さんじゃないにしろ、あったら、きっと何かのきっかけになるんじゃないかなというのも思いました。

あと、いっぱい見ていたんですけども、びっくりする結果もたくさんあって、私はちょうど小学校5年生、習い事で中学生のお姉さんお兄さんと関わりますけれども、来年というのかな、次に向けて、もっとこのアンケートは、集計を取る方も、アンケートをする方も大変だとは思いますが、何かつながっていくのかなと思って、ありがたいなと思いました。

すいません。

本多教育長 ありがとうございます。

たくさん御意見をいただきまして、ありがとうございます。教育推進プラン・江東をつくっていくためには、すごくいい調査、いい結果だったかなと思います。これは内容がいい、悪いということじゃなくて、次に生かすというところでは、これを大事にしていかなければいけないだろうなと思っています。

先ほど安部委員がおっしゃってくださった、江東区の教育環境は充実していると思いますかという質問に対して、区民向けのところでは、「充実している」の数字が低かったわけですがけれども、例えば保護者で107ページのところに、保護者向けだと、充実していますかという同じ質問に対して、「充実している」と「とても充実している」を合わせると、半分以上の方がそのように理解しているんですね。

なので、教育の状況をよく知っている方は、理解してくれている。でも、そうじゃない方々には届いていないと考えれば、もっとPRしてもいいよねというところも一つあるだろうと思っています。

あと、保護者の方々も、江東区の自分のお子さんを預けている学校しか知らなかったりするので、そこでの判断基準になると思うんですけども、私みたいにほかの区様々、いろいろな学校を見てくると、江東区はこれだけ力を入れている、素晴らしいと思うことは多々ありますので、そういった見方というのは様々あると思うんですけども、このデータを客観的に生かして、次につなげていくということが必要なので、今たくさん御意見をいただきましたけれども、次につなげていく必要があるだろうなと思っていますので、しっかりと活用していきたいと思っております。ありがとうございます。

それでは、本報告を終了いたします。

次に、報告事項3 令和7年度新1・7年生の学校選択制度の進捗状況についてを説明願います。

学務課長。

佐久間学務課長 資料5をお願いいたします。

令和7年度新1・7年生の学校選択制度の進捗状況についてですが、12月の教育委員会におきまして、抽選結果まで御報告させていただいております。本日は最終繰上げの結果を御報告させていただきます。上の表が小学校、下の表が中学校となります。

まず、小学校につきましては、抽選日現在、6校42名の補欠の方がいらっしゃいましたが、最終的に、平久小学校、南陽小学校、元加賀小学校、3校で合計18名となっております。

次に、中学校では、抽選日現在、19校769名の補欠の方がいらっしゃいましたが、最終的に全員が希望どおりに進学できることとなりました。

説明は以上となります。

本 多 教 育 長 本件について質疑願います。
鈴木委員。

鈴 木 委 員 中学校はいいんですけども、小学校のほうを見ていると、抽選日現在の補欠数と最終の残の数字が減っているんですけども、主たる要因は受験でしょうか。

本 多 教 育 長 学務課長。

佐久間学務課長 おっしゃるとおり、受験の関係もございますけれども、中には辞退をされたという方もいらっしゃいますので、結果としてこのような形になったというところでございます。

本 多 教 育 長 ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
では、本報告を終了いたします。
それでは、以上をもちまして、令和7年第1回江東区教育委員会臨時会を閉会いたします。ありがとうございました。